

第2章 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の概要

1 こんなプロジェクトです

- 住民の主体的・協働的な「学び」から始まる地域づくりのプロジェクトを公民館等職員が多様な側面からコーディネートする事業です。
- 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」が拠点となり、行政（他部局）や教育機関、企業、NPO等の多様な主体と連携・協働して、多様な地域住民が主体的に地域づくりに参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクト開発を目指します。
- 公民館等職員の「コーディネート力」の向上を図るとともに、県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性（有用性）を生かす仕組みを取り入れます。

人口減少時代の新しい地域づくりを進めていくためには、住民が主体的に地域の課題や将来像を共有し、解決に向けて地域でともに学び、つながり合い、その成果を社会貢献や地域参画の活動につないでいくことが重要です。

地域住民の最も身近な学び・交流の拠点である公民館等の社会教育関係施設は、住民の主体的・協働的な学びを通じた「地域課題解決」の取組を様々な側面から支援・コーディネートする役割がより一層期待されています。

複雑多様化する社会の中で、解決すべき課題は様々な背景や要因と絡み合っており、既存の組織が独自の使命のもとで、単独で業務を遂行し、有効な成果を生み出すには限界があります。

限られた地域の資源を有効に活用するとともに、従来の「自前主義」から脱却し、「公民館」が地域の拠点となって、教育行政のみならず、まちづくり、福祉、健康、防災、産業振興等の他の行政部局や教育機関、NPO、企業等の多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていくことが必要不可欠です。

一方、現場の「公民館」はどうでしょうか。人口減少・高齢化など、急速な社会環境の変化のなかで、事業への参加者や地域活動の協力者（担い手）が高齢化・固定化しているといった悩みが多く聞かれ、「公民館」に「高齢者の趣味・教養のたまり場」といったイメージが広がっている側面があることは否めません。高齢者が気軽に集える場としての「公民館」の機能は今後も多くの地域でますます必要とされる一方で、多様な世代の住民の参加や世代間の交流が求められる地域もあることでしょう。

また、公民館等職員の皆さんの様々な創意工夫により、多様な取組があちこちで行われているものの、学びの成果を地域課題解決の活動にまでつなげる具体的な仕掛けやノウハウが蓄積されておらず、取組の成果が住民にまで届いていないといった課題もあります。

こうした現状を踏まえ、「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」は、広島県立生涯学習センターの調査研究・研修事業の枠組みを活用し、地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たすための支援事業として、平成31年度から試行的にスタートすることとしました。

広島県内各地の「公民館」からさらに元気な取組が発信できるよう、公民館等職員の皆さんと、社会教育における専門的教育職員である、県及び市町の「社会教育主事」がその役割・専門性を発揮して一緒に汗をかきながら、このプロジェクトを進めていきたいと考えています。

「ひろプロ」の未来は未知数です。様々な垣根を乗り越えて、私たちと一緒に、「オール広島」・「オール地域」で、「学びから始まる地域づくり」をテーマに、新しい価値を創造していきましょう。

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称：ひろプロ) 支援事業

趣旨

地域住民にとつて最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」(※)が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じて地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。

※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の公民館類似施設を含む。

現状と課題

- 「高齢者の趣味・教養のたまり場」というイメージが定着し、利用が活性化していない。(利用者の減少・固定化)
- 多様な取組が行われているが、学びの成果を地域課題解決につなげる具体的な仕掛けやノウハウの蓄積がない。

→ 市町の取組格差あり

目指す姿

- 地域の多様な世代の人々(機関・団体等を含む。)が「公民館」に集い、豊かなつながりや学び合いが生まれている。
- 「公民館」がコーディネート機能を発揮し、住民の主体的な学びを通じて地域課題解決の取組を促進するための地域ネットワークの中核拠点となっている。

→ 市町の現状・課題に応じた県の支援

新たな取組の概要

具体的なイメージ

- 住民の主体的な学びを通じた地域づくりの推進に向けて、社会や地域の課題解決と学びをつなげる「学習プログラム」のモデルを実証開発。

「ひろプロ」のコンセプト

- ① 広島モデルを実証開発(オール広島)
- ② 実践の拠点は「公民館」
- ③ アレンジ自由・成長性・発展性
- ④ 体験型・参加型・参画型
- ⑤ 連携・協働・共創

- プログラムをアレンジして各地域の実態に応じたプロジェクトをコーディネートできる人材(「公民館」職員等)を育成。
- 地域資源(社会資源)である「公民館」を活用し、行政(首長部局)や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等の多様な主体と連携・協働しながら、地域住民が主体的に参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクトとする。
- 県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性(有用性)を生かす仕組みを取り入れる。

→ 市町では対応困難な県域でのモデル的取組

「ひろプロ」の実証開発

- ◆ 地域の未来像を共有するための学びの場づくり
地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、地域のお宝発見、公民館エリア探検、ふるさとの未来・再考！フォーラム、これからの○○地区を考える会、未来づくりトークセッション…
- ◆ 地域の人材による家庭教育支援
子育てサロン・おしやカフェ(地域の居場所づくり)、子育て講座(「親の力」をまなびあう学習プログラム講座等)、家庭教育支援チームの組織化、子育てサポーター・ファシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発…
- ◆ 地域の人材による地域学校協働活動の推進
公民館等を拠点とした体制整備・仕組みづくり、学校支援活動(学習支援、学校環境整備、登下校の見守り等)、放課後子供教室、地域未来塾、地域の人材発掘・育成(研修、人材バンク)、地域住民の理解促進・ビジョン共有…
- ◆ 地域の人材による社会的包摂の実現
地域子供食堂、○○公民館カレーの日、ユニバーサルカフェ、できること持ち寄りワークショップ、地域支えあいプロジェクト、セーフティネット学習会、地域交流会マップづくり…
- ◆ 地域防災・減災の仕組みづくり
関係組織のネットワーク化、避難所運営の仕組みづくり、防災ワークショップ、防災キャンプ、防災フェスタ、防災運動会、子供防災士養成講座、避難所開設訓練、防災「ひろしまプログラム」、「みんなで減災」一斉地震防災訓練、ハザードマップ作成…
- ◆ その他(地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成)
若者やシニア世代の地域参画、地域行事活性化・地域の担い手育成、高齢者の健康・生きがいづくり、介護、多世代交流、グループハルリナーダ育成、伝統文化継承、ふるさと教育、空き家対策、婚活支援、地域ブランド・特産品開発、コミュニティビジネス…

学びを通じて地域づくりに関するコーディネートネットワークの向上(「ひろプロ」コーディネーター研修、モデル実践の支援)

- 「ひろプロ」の企画・調整・運営を務める職員対象の研修を実施
- 既存の「地域課題対応研修支援(訪問型研修)」の枠組を活用(拡充)し、市町の現状・課題に応じて、モデル実践を支援
- 「ひろプロ」コーディネーターハンドブック」開発(調査研究)
- 参加促進・成果発信・「公民館」のイメージ向上
事業成果発信による、新たな参加者層の巻き込み
アイコン・イメージキャラクター等開発



「ひろプロ」マーク

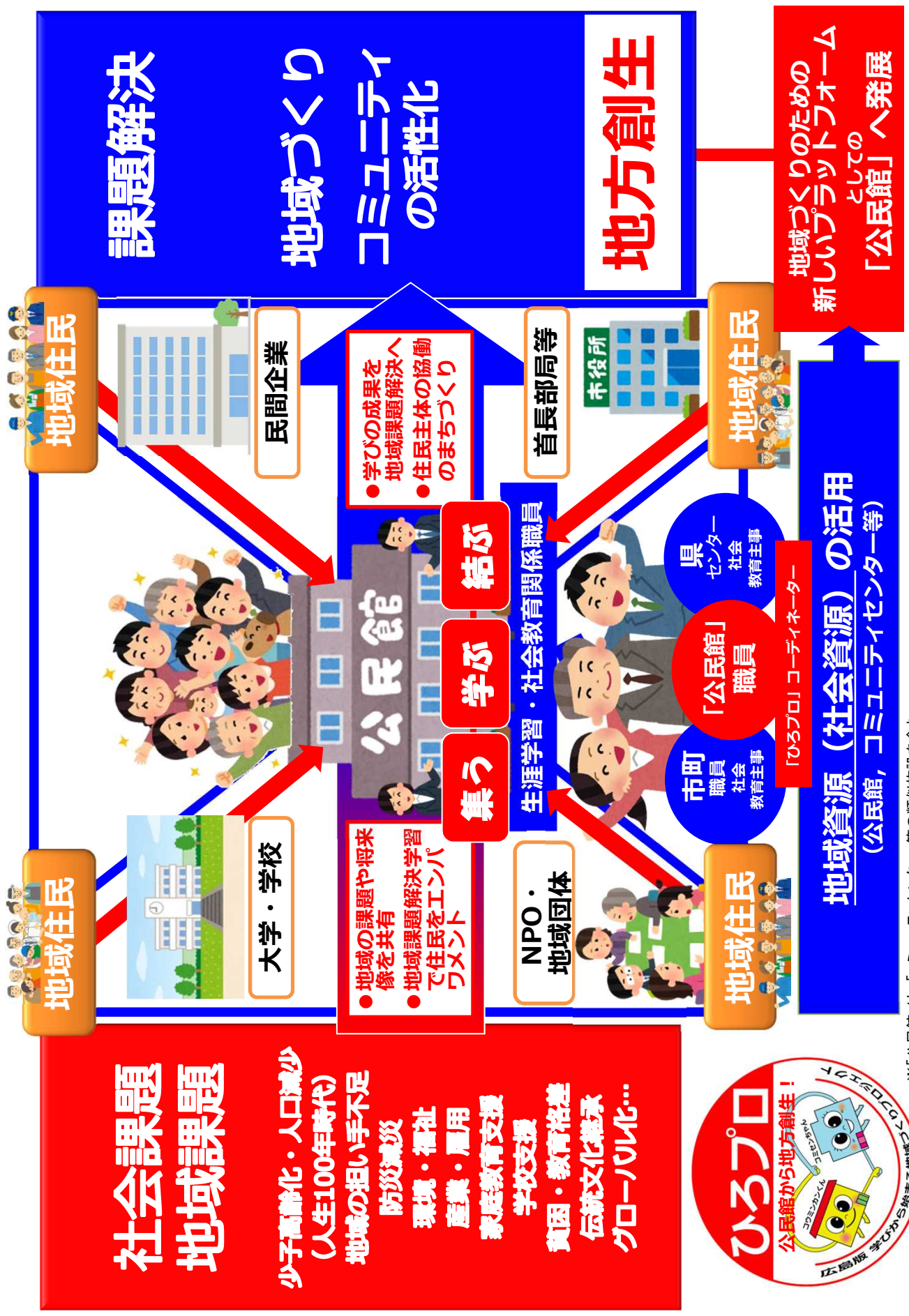
現行の取組

公民館等活性化モデル事業 (H26～)
子供を含めた地域住民が公民館等に愛着と理解が持てるような活動に対して助成(企画の支援) 【主催：県公民館連合会】
→ 認知度向上・活用促進・情報充実

訪問型研修 (H28～)
各市町の課題に応じた研修の実施について、県の社会教育主事が訪問して支援
→ 研修が必要な市町への働きかけ

公民館等取組事例集 (H28～)
公民館等の取組事例を収集し、HPで情報提供
→ 新たな好事例の開発・支援

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称:ひろプロ)イメージ



※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の類似施設を含む。

2 コンセプト

「ひろプロ」のコンセプト

- 1 広島モデルを実証開発（オール広島）
- 2 実践の拠点は「公民館」
- 3 アレンジ自由・成長性・発展性
- 4 体験型・参加型・参画型
- 5 連携・協働・共創

1 広島モデルを実証開発（オール広島） ～広島県の「公民館」が面白い～

広島県の「公民館」では、関係職員の皆さんの様々な創意工夫や熱意により、多様な取組が幅広く行われています。「ひろプロ」は、こうしたたくさんの県内の「公民館」の元気な取組の具体的な仕掛けやノウハウ、また、実践から生み出された知恵やアイデアを集積することにより、オリジナルの「広島モデル」を実証開発、その成果を県内外に波及させていきます。今、広島県の公民館が熱い！おもしろい！広島県の元気な公民館の実践を「オール広島」で広げ、発信していきましょう。

2 実践の拠点は「公民館」 ～“公民館”も“コミセン”も～

地方行財政改革の進展等に伴い、“公民館”が、コミュニティセンターやまちづくりセンター、自治振興センター等の“公民館類似施設”に移行する動きが全国的に見られます。しかし、これらの施設は、持続可能な人づくり・つながりづくり・地域づくりを実現するための学びや活動の“場”であることに変わりはありません。「ひろプロ」は、社会教育法に規定された“公民館”と“コミセン”等の“公民館類似施設”の線引きをすることなく、住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点としての地域資源（社会資源）である「公民館」の機能に焦点を当て、地域住民が主体的・協働的に地域づくりに参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクト開発を目指します。

3 アレンジ自由・成長性・発展性！ ～地域オリジナルの未来を描く～

地域課題の解決に、こうすればうまくいくといった“唯一絶対の正解”や“統一的な処方箋”はありません。それぞれの“答え”はそれぞれの地域の中にあるはずで、大切なのは、その地域ごとの“答え”を地域住民とともに導き出していく「プロセス」です。モデルは、あくまでこれまでに実践された取組のポイントを「見える化」「汎用化」して分かりやすく提示した「ヒント」に過ぎません。このとおりに行う必要は全くありません。地域固有の魅力や特色、

また、現状や課題を分析し、その地域ならではの未来を描ける地域オリジナルの形にコーディネートしてください。PDCAサイクルを循環させながら、地域オリジナルの形にアレンジし、オリジナルのプロジェクトの成長・発展を実現していきましょう。

4 体験型・参加型・参画型 ～住民の主体性や当事者性を育む～

住民の主体性や協働性を育むためには、住民の「思い」や「気付き」を引き出し、地域全体で共有していくことが大切です。「どう動かすか」ではなく、「どう一緒に動くか（動きたい気持ちになるか）」がキーポイントです。住民それぞれが自分たちの思いや意見、これまでに培ってきた知恵や経験を交流し、学んだ成果を自然に生かしていきたくなるような、「体験・参加・参画」型のスタイルをベースに進めていくことが有効です。何度も顔を合わせて話し合ったり、一緒に汗をかいて活動したりする中で、共感や信頼関係が生まれ、地域が少しずつ動き始めます。また、地域を支えたり、学びやつながりを必要としたりしているのは、地域活動に積極的に参加している人だけではありません。仕事や家事、子育て、介護、勉学等により時間的・体力的・経済的な制約がある人を始め、障害者、外国人、困難を抱える人々など、全ての住民が孤立することなく、参加できるような工夫を取り入れましょう。

5 連携・協働・共創 ～プラットフォームとして機能する場づくり～

「ひろプロ」では、様々な垣根を乗り越えて、「学びから始まる地域づくり」をテーマに、新しい価値を創造していきたいと考えています。そのためには、従来の「自前主義」から脱却し、「公民館」が拠点となって、教育行政のみならず、まちづくり、福祉、健康、防災、産業振興等の他の行政部局や教育機関、NPO、企業等と多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていくことが必要です。地域内外の多世代・多目的・多様なたくさんの人や組織が「公民館」に乗り入れ、「連携・協働・共創」を実現できるような、オープンでフラットなプラットフォームとして機能する場づくりを創造していきましょう。

大竹市立玖波公民館「地域ジン 学びのカフェ」

(平成 26 年度文部科学大臣表彰優良公民館表彰・最優秀館)

公民館のイメージアップを図る「おしゃれな学び空間」として、「学びのカフェ」を創設。自由に語り合うカフェタイムを設けるなど、参加者の交流を図り、住民同士の絆を深めた。また講座内容にも工夫を凝らし、タイムリーで魅力的な講座を企画し大幅に刷新。若者や中学生など、今まで来館したことがない参加者が激増し、まちを元気にする「地域ジン」が誕生。毎月の講座の手伝いととも、オリジナルTシャツ、テーマソング、地元の飲食店マップ「見知らんガイド」など、次々と作成。その後、空き古民家を利用した「古民家 de カフェ」や、地域総出演のファッションショー「くばコレ」をはじめ、「KUBA シネマ」開催など事業の発展を見せている。



広島市古田公民館「このまちに暮らしたいプロジェクト」

(平成 30 年度文部科学大臣表彰優良公民館表彰・最優秀館)

少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む事業である。古田中学校の生徒と古田地区住民が一緒になって、30年後の地域の暮らしを考え、行動するため、平成 25 年度に古田公民館が立ち上げた。中学生の発案で「みんなが幸せに使える公園」をテーマにワークショップや体験イベントを実施するなど、公民館が多世代の居場所づくりの拠点となっており、これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材が育まれている。地域から愛され、地域とともに成長する公民館を目指し、住民が集い、学び合い、結び合う場となるよう事業が展開されている。



3 「ひろプロ」で取組を期待するテーマ

1 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

2 地域の人材による家庭教育支援

3 地域の人材による地域学校協働活動の推進

4 地域の人材による社会的包摂の実現

5 地域防災・減災の仕組みづくり

6 その他

地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

「ひろプロ」では、「学びから始まる地域づくり」の実証開発を進めます。日常生活の中で「困ったな」と感じることや、「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と思うことは、広く「地域課題」と捉えられます。また、住民にとって身近で目的を共有しやすいテーマを設定し、それぞれが持つ知恵や経験を出し合いながら、楽しく、やりがいをもって取り組んでいけるような学びや活動の機会を作ることも大切です。

これから、「ひろプロ」で取り組んでいきたい地域課題（テーマ）として、上の6つの切り口で、課題解決に向けた取組のヒントや、想定される取組の具体例を整理しました。「公民館」で実際に取り組まれた実践事例の情報をぜひお寄せください。

1 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

学びの成果を生かした地域づくりを進めていくためには、住民自らが地域の課題や未来像を共有し、当事者意識を持って、学びの成果を実感しながら地域課題の発見から解決に至るまで共通理解の中で活動に取り組んでいくプロセスが重要です。例えば、課題の発見・共有・解決の三つの段階を意識しながら、地域の未来像を構想し、共有化した上で、参加者が協働して目標達成に向けて取り組み、解決を目指すといったプロセスなどが考えられます。活動を振り返り、次に生かす計画・実践・評価・改善のサイクル（PDCA サイクル）を「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

また、次世代を担う子供・若者が、地域での学びを通じて地域課題やその解決方法を様々な世代の住民と共に実践的に学ぶことは、持続可能な地域づくりや、地域への誇りや愛着を持ち、自分自身が関わって地域を良くしていこうとすること（シビックプライド）にもつながります。

具体的なテーマ例

地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、次世代未来づくりサロン、地域のお宝再発見プロジェクト、ふるさと学習、このまちにくらいたいプロジェクト、公民館エリア探検、中高生「まちづくりスクール」、地域まるごと〇〇大学、〇〇井戸端会議、地域のお宝発信隊、地域ミステリーツアー、ふるさとの未来・再考！フォーラム、これからの〇〇地区を考える会、未来づくりトークセッション、地域課題チャレンジ講座、私たちの〇〇公民館プロジェクト…

2 地域の人材による家庭教育支援

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状が指摘されています。

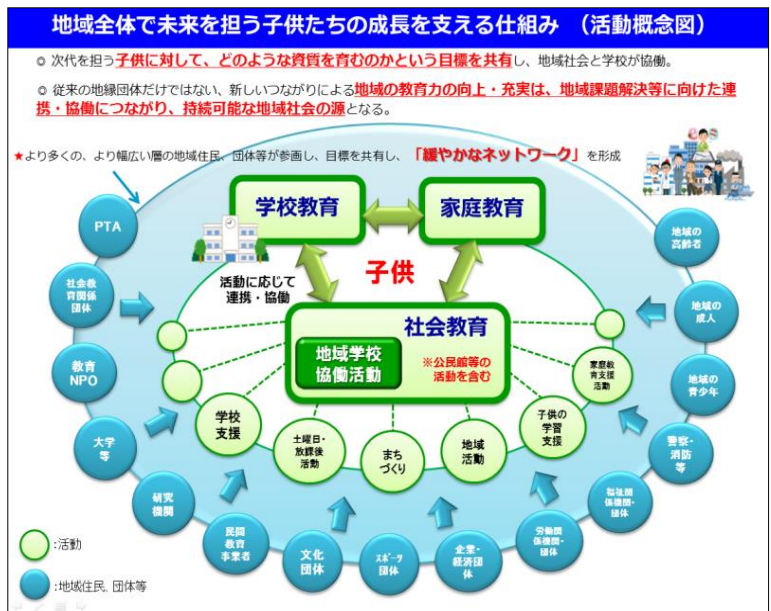
全ての親の親としての学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本です。その中で、応援される側が学び育つばかりでなく、応援する側も共に学び育つ関係にあることによって、双方の実践を通じた学びの循環が家庭教育支援全体の生涯学習としての性格を形成することにつながります。さらに、その学びは、応援される側、応援する側という人と人との結び付きの広がりを通して、仲間づくり、ひいては地域コミュニティづくりに展開、発展していく可能性を持っています。地域をはじめとした様々なつながりの中で、助け合いながら子供たちの育ちを応援していこうとする視点が大切です。また、悩みや不安を抱えて孤立しがちな家庭や仕事で忙しい家庭など、待っていては支援が届きにくい家庭に対して、身近な地域の人材を中心にきめ細やかな活動を組織的に行う仕組みを検討していく必要もあります。

具体的なテーマ例

子育てサロン・おしゃべりカフェ（地域の居場所づくり）、子育て講座『親の力』をまなびあう学習プログラム講座（保護者への学びの場の提供）、イクメン講座、孫育て講座、家庭教育支援チームの組織化、訪問型家庭教育支援の仕組みづくり、子育てサポーター・ファシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発（SNS等を活用した情報発信）…

3 地域の人材による地域学校協働活動の推進

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動は、地域の新しい人づくり・つながりづくりの機会として大きな可能性を持っています。子供に関わる活動への多様な住民の参加や、子供たち自身の地域への関わりを通じて、地域づくりに関する学びと活動の輪が広がり、世代を超えて循環していくことが期待されます。身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自分の存在が認められることや自分自身の活動によって自らの人生や社会をよりよく変えたりしていくことができる実感



平成 27 年 12 月中央教育審議会「地域学校協働答申」より

育むことは、子供たちの成長につながります。今、学校は、「社会に開かれた教育課程」を理念として、社会や世界と接点を持ち、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことができる開かれた環境を実現していこうとしています。公民館がハブとなり、地域内外の様々な主体が緩やかなネットワークの形成を図りながら、学校、家庭、地域が相互に協力し、子供の成長というテーマを核に、地域全体で学びを展開し、子供も大人も学び合い育ち合う体制の整備が目指されます。

具体的なテーマ例

公民館をハブとした地域学校協働活動の仕組みづくり、学校支援活動（授業等の学習補助、教職員の業務補助、部活動指導補助、学校行事支援、学校環境整備、登下校の見守り等）、放課後子供教室、地域未来塾、土曜日の教育活動（学習支援）、コーディネーター・ボランティア等の地域の人材発掘・育成（研修、人材バンク）、地域住民の理解促進・ビジョン共有（〇〇地区の“育みたい子供像”を考える交流会）、通学合宿、地元中・高等学校等との連携協働事業（地域課題解決学習）…

4 地域の人材による社会的包摂の実現

年齢・性別・障害の有無・国籍・所得等にかかわらず、さらに、孤立しがちな人や、生きづらさを抱えた人も含め、全ての人が共に認め合い、温かい関係性の中で自らを高めながら暮らすことのできる共生社会を実現し、社会福祉を増進する上で、生涯学習や社会教育は大きな役割を果たします。社会の中で孤立しがちな人々の学びのきっかけづくりに向け、多様な関係者が連携し、より一層きめ細かい取組を進める必要が求められます。福祉部局や民生委員、社会福祉士等、専門性を持った多様な主体と連携を進めることにより、孤立しがちな人や生きづらさを抱えた人に対するアウトリーチの取組等にもつなげていくことができます。

具体的なテーマ例

地域子供食堂、〇〇公民館カレーの日、ふれあいオープン喫茶、みんなの寺子屋プロジェクト、ユニバーサルカフェ、どこでもお悩み相談カフェ、できることちよりワークショップ、地域支え合いプロジェクト、セーフティネット学習会、地域支え合いマップづくり、外国人住民のための医療機関マップづくり、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ…

5 地域防災・減災の仕組みづくり

公民館等の社会教育施設には、地域活性化・まちづくりの拠点に加えて、災害時の「避難所」となるなど、いずれの地域でも大きな課題となっている地域の防災拠点としての役割が強く期待されるようになってきました。「公民館」が他の施設と異なる特徴は、地域住民に対して、日常の防災意識を高めるための防災学習が実施できる点です。大きな災害が繰り返し発生している今、住民への防災学習は喫緊の課題であり、「公民館」に課せられた重要な役割です。地域防災・減災の仕組みをつくっていくためには、行政による「公助」のみならず、個々人の自覚に根差した「自助」や、さらには地域における「共助」の取組が不可欠です。そして、その前提となるのが、一人一人の防災意識であり、地域の防災力です。

具体的なテーマ例

地域防災関係組織のネットワーク化、防災ワークショップ、地域防災力アップ講座、防災キャンプ、防災フェスタ、防火訓練、救命救急講習、防災ウォークラリー、災害発生直後の避難所（公民館）運営の仕組みづくり、災害時避難所開設訓練（HUG 避難所運営ゲーム）、クロスロードゲーム、DIG（災害図訓練）、防災教室「ひろしまJプログラム」、防災運動会（地区運動会と合同実施）、「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」参加、ハザードマップ作成、災害ボランティア入門講座、災害語り継ぎ事業…

6 その他 地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

◆地域の人材育成

具体的なテーマ例

地域づくり担い手養成セミナー，地域の魅力発信「〇〇学」ボランティア養成講座，地域協力し隊プロジェクト，まちのおせっかいさん養成講座，地域講師デビュー応援事業，公民館活動リーダー養成塾，こども先生育成事業，まちづくりファシリテーション講座…

◆若者や中高年世代の地域参画

具体的なテーマ例

地元中学校・高等学校等との連携協働事業（地域課題解決学習），若者の力を生かす地域活性化プロジェクト，地域デビュー講座（入門編，計画編，実践編），あなたもなれる！おケイコ講師デビュー応援講座，おとなの学び応援塾，セカンドライフ創生塾…

◆共助による高齢者支援（健康寿命，健康・生きがいづくり，介護，社会的孤立防止，多世代間交流…）

具体的なテーマ例

熟年者マナビ塾，ふるさと講師リレー講演会（おいしいちゃん・おばあちゃんから昔話を聞こう），思い出語りボランティア講座，めざせ健康体クラブ，笑顔のつながりプロジェクト，残しておきたいふるさと料理事業，傾聴ボランティア（話し相手づくり）養成セミナー，終活セミナー…

◆グローバル化と地域（国際理解・交流，多文化共生…）

具体的なテーマ例

グローバルカフェ，留学生による多国籍交流料理教室，やさしい日本語教室，日本語ボランティア養成講座，次世代グローバル人材育成プロジェクト…

◆地域産業振興（地場産業活性，地域ブランド開発，コミュニティビジネス，観光促進…）

具体的なテーマ例

地域CMづくりプロジェクト，〇〇アグリカルチャー大学，〇〇商店街活性化コラボプロジェクト，地域ブランド（名産品）開発事業，リノベーション公民館，〇〇こども起業塾…

◆地域振興全般（伝統文化継承，地域行事・地域団体活性化，定住・空き家対策，関係人口増加…）

具体的なテーマ例

自治会（子供会）活性化プロジェクト，〇〇まつり応援隊，お祭り公民館（公民館まつり活性化），空き家プロジェクト，ご当地アイドル養成講座，ふるさとツアープロジェクト，農村体験プログラム，恋の輪〇〇婚活支援プロジェクト…

「持続可能な開発目標」(SDGs)

平成27年9月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標」(SDGs: エスディーゼーズ)が採択され、地球上の「誰一人として取り残さない (leave no one behind)」をテーマに、持続可能な世界を実現するための国際目標が定められています。目標は、誰一人として取り残さない「包摂性」や、全てのステークホルダーが役割を持つ「参画性」、社会・経済・環境に統合的に取り組む「統合性」等が特徴です。また、SDGsを受けて策定された日本国内の実施指針においても、優先的に進める分野の一つとして「あらゆる人々の活躍の推進」が挙げられています。

広島県においても、平成30年6月に「SDGs 未来都市」に認定、8月に「SDGs 未来都市計画」を策定して、SDGsの達成を通じた平和構築の実現に積極的に取り組んでいます。

本プロジェクトでは、地域の課題解決がグローバルな課題解決に繋がっていくこと、グローバルな課題解決は地域での課題解決の積み重ねであることを意識していただくこと意図して、「企画シート」等にこの「SDGs」のアイコンを付しています。

